

社会資本総合整備計画『都市公園の整備による緑豊かな魅力ある まちづくり「その2」』の事後評価

●委員

P20にあるように遊具の選定において、森のようちえんや近隣の幼稚園にアンケートを実施し、利用者に聞き取りを行うなど、公園利用者に必要なものを取り入れてくれていることがわかった。

P4、P14の目標に記載の年について、H29年末、R元年末とあるが、年末か年度末か？

●都市計画課

記載の年について、データは年度末のデータである。資料を修正させていただく。

●委員

P17、P18にて木製遊具の劣化の説明があったが、P20の遊具の改修後のイメージ図では木製遊具ではない。このような遊具が選定されたのは、メンテナンス面からそのようなものになったのか、それともイメージ図のように今風のデザインで選定されたものか？

●都市計画課

P20のイメージ図のとおり、春日山公園、びわこ文化公園ともに木製遊具ではない。

アンケートの際には、選択肢に木製もあり、木製のメリット、デメリットを説明したうえで実施した。実施した結果、木製の遊具は選定されなかった。

●委員

これは感想であるが、『びわこ地球市民の森』の写真を見ると、自然の状態は自然の状態であり、魅力を感じる。しかし、求められているのはきちんとした舗装となるのか？そのうえで、植樹、育樹活動を進めるといふところに若干違和感がある。

●委員

『びわこ地球市民の森』は、この整備前はうっそうとしており、歩きにくいところであった。今のように整備していただいた結果、公園で散歩や遊ぶ、育樹活動する人が増えた。山から湖へ『びわこ地球市民の森』を散歩していると風景が変わるなど、公園利用者としてはよかったと思う。

●委員

指定管理者制度についてよくわからない。長寿命化対策は、施設の安全対策だと思うが、利用者が怪我された際に保険制度はあるのか？

●都市計画課

指定管理者制度では、公園の維持管理を民間に委託している。保険制度については、県と指定管理者ともに保険に加入している。トラブル、瑕疵があった場合は、保険制度を適用している。

●委員

指定管理者は遊具の管理責任も負うのか？

●都市計画課

施設の管理責任を負っている。

●副委員長

P15にて、定量的指標の説明があったが、この指標の目標において満足度の増加としているが、年ごとの目標値は増加していない。実績値は増加しているので良いが、目標値は増加していないのに文言は増加しているというのに違和感がある。

●都市計画課

ご指摘のとおり、目標値はどの年においても50%以上としている。この目標値を設定する際、『びわこ地球市民の森』では、指定管理者制度を導入したところであり、『びわこ地球市民の森』のデータがなく、満足度は県政世論調査でアンケートを実施していたが、うまく拾えていなかった。県政世論調査では30%程度であったものを50%にあげて、50%を維持しようと目標を設定した。増加という目標であったことから、目標値において右肩上がりに設定すべきであった。

●委員

去年、何度かこの公園に行って、大変素晴らしい公園だと感じた。さすが滋賀県が整備したと感じる。どんどん満足度が上がっているということは、どこか文章の中に入れておけばよいと思う。目標は設定したが、結果的には年次ごとに満足度が上がっている。

平成31年度で終わってしまい、この先はどうするのか？

琵琶湖と一部繋がっていない。琵琶湖と繋がるようにしてほしい。

●都市計画課

整備はひとまず完了となるが、これからは植樹から育樹に変えて、森を更に育てていこうということで、ボランティアの数も維持しながら進めていきたいと考えている。

環境教育にも、今後力を入れて進めていきたいと考えている。

ご指摘のとおり、琵琶湖には繋がっていないが、地元の皆様と市役所と一緒に、一体感のある整備を検討している。それが上手くいけば琵琶湖から繋がった緑地が整備できるのではないかと考えている。

●委員

予算はあるのか？

●都市計画課

維持管理の予算は確保している。今後の整備に関する予算は持っていない。維持管理の予算を有効に使い、『びわこ地球市民の森』を維持管理していきたい。

●委員

『びわこ地球市民の森』について、3点に意見を言わせてほしい。

1点目は、このような園路整備をしていてはだめ。管理用道路の一部は仕方ないと思うが、自然的な道を舗装、鉄製の柵を設置していいのか。これからの公共空間の整備として、利用者の満足度ばかりを優先していいのか。どのように自然環境との関わり、整備していくのがいいのか、検討してほしい。

2点目は、P3に記載している計画目標についてである。目標は「琵琶湖流域生態系の保全・再生、暮らしと湖の関わり再生」とあるが、生態系の保全・再生の部分とかに関する説明がなく、園路整備等ばかりの説明は事業説明としていかなものか。「地域の保全活動を支援できる仕組みづくり」とあるが、仕組みが園路整備だというのも説明が飛躍している。

3点目は、この整備計画の目標が「指標の育樹ボランティア活動者の数の増加」につながるのか、今ひとつわからない。P10のような園路整備が目標「生態系の保全」になっているのか、という話である。アウトカムの指標「ボランティアの活動増加」が、園路整備とどのようにつながるのか。

●都市計画課

難しいところである。この『びわこ地球市民の森』においては、地域の方や専門家などの意見を聞く場として検討協議会を立ち上げている。検討協議会で出た意見を吸収し、よりよい公園、みんなに求められる公園にしていきたいと考えている。

ボランティア活動の増加を指標にさせていただいたのは、活動者にアンケートを実施した結果、活動の場に『びわこ地球市民の森』を選ばれる理由として、活動できる場が駐車場から近い、アクセスがいい、なども参加される要因となっていた。活動の場へのアクセスをよくする、資材の持ち運びをしやすくすることで増加につながるとして設定した。当整備計画においては、生態系の保全などに関することも指標に設定すべきであった。今後、

自然環境の保全・再生のかたちの見える化、数値化も検討していきたい。

●委員

今回の整備において、生態系保全・再生に関して予算の伴う整備を実施したのか？

●都市計画課

保全に関するものに関して、予算を投じていなかった。

●委員

今の意見はこれからよりよいものになってほしいということからの意見である。今後の整備においてはそのようなことも踏まえて進めて欲しい。

●委員

よりよい公園という定義は難しい。「自然にふれあえる都市公園、地域活性化の拠点の整備」とあるように、都市公園においては、歩きにくい園路には舗装、危ないところには柵など安全性を考えると必要である。指標の説明であったようにボランティアの数、公園利用者が増えているということは、公園利用者の満足度が高い公園づくりをされていると感じている。自然とのふれあい、関わり方は今後の課題としていて、何らかの自然の指標を設定し、結果が出せるようにされてはどうかと思う。

(以上)